

科目名	教育基礎論			担当教員	龍崎 忠
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での指導・助言の経験を生かし、教育の理念や歴史について受講者とともに検討する。				
到達目標及びテーマ	<到達目標> 1. さまざまな教育の理念や思想や歴史について説明することができる 2. これからの時代にふさわしいと思われる教育の在り方を論理的に説明できる 3. 教育学の“おもしろさ”を積極的かつ多面的に見出しそれらを説明できる <テーマ> 教育とは何か、教育とはどうあるべきかについての考察				
授業の概要	「教育とは何か」と同時に「教育とはどうあるべきか」の両者について、教育改革を含めた現代の諸動向をふまえ、教育と教育学に関する基礎的な理論や具体的な実践を交えて概説する。教育の理念・歴史・実践といった多様な観点から考察することを通じて、人間の理解と発達援助の学としての教育を、より広い視野において学ぶことを目的とする。				

授業計画	
第1回	1. ガイダンス(人間にとって教育とは何か)：教育の原理
第2回	2. 教育の意義と必要性(教科書第1章)：教育の原理(続)
第3回	3. 乳幼児期の教育の理念(第2章)：子どもの最善の利益
第4回	4. 児童期の教育の理念(第3章)：幼小中高の接続
第5回	5. 教育の歴史と思想(第4章)：子ども観と教育観
第6回	6. 学校教育の仕組み・制度(第5章)：教育行政
第7回	7. 教育の内容と方法(第6章)：子どもに育てたい力
第8回	8. 教育の計画と評価(第7章)：PDCAサイクルと教育
第9回	9. 子どもと環境(第8章)：自然と文化のなかの子ども
第10回	10. 専門性の発達(第9章)：教師教育
第11回	11. 文化的営みとしての教育(第10章)：教育と文化
第12回	12. 学び続けるということ(第11章)：生涯学習
第13回	13. 社会福祉としての教育(第12章)：子育て支援
第14回	14. ジェンダーから見る教育(第13章)：隠れたカリキュラム
第15回	15. ケアリングと福祉としての教育(第14章)：教育学を広げる

事前学修	2	あらかじめ教科書の当該部分を丁寧に読み、うまく理解できない用語や内容を調べておく。
事後学修	2	取り上げた内容について理解や関心が深まったものをさらに調べる。
フィードバックの方法	リアクションペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて全体でシェアする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎回テーマに係るワークを交える
レポート	30%	期末のレポートを実施する
定期試験	0%	定期試験については実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパス教育原理	古賀一博・中坪史典・加藤 望 編	建帛社	4767951300	なし
参考資料				

科目名	教育基礎論			担当教員	田中 亨胤
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	教職に就くことを視野に置き、教育の基礎的理解を多角的に図り、専門職者として歩む心持を広げ深める学びの機会とする。 ・公教育としての学校教育の基本について、把握し理解できる。 ・教育の考え方の変遷のあらましについて、説明できる。 ・未来志向としての教育論について、自分なりの言葉で述べることができる。				
授業の概要	教育の基本的概念、理念はどの様に把握されうのか、教育の歴史や思想がどの様に変遷し醸成されてきたのか。これらについて学習しながら、これまでの教育および学校の営みがどの様に受け止められ、公教育として発展してきたのか。その基本を理解する。これらの視座を踏まえ、社会教育、家庭教育、生涯学習についても理解を図ることとする。				

授業計画	
第1回	○はじめに：オリエンテーション 第1回：教育の意味世界（1－1）
第2回	第2回：子どもの成長・発達と教育（1－1）
第3回	第3回：教育装置としての学校・家庭・地域・社会状況（1－2）
第4回	第4回：学校教育の体系と制度：わが国の場合（2－2）
第5回	第5回：学校教育の体系と制度：外国の場合（2－2）
第6回	第6回：教育実践のフレームワーク：教授－学習の方法・教育評価（2－3）
第7回	第7回：社会変化と教育の潮流：生涯学習社会における学び（2－3）
第8回	第8回：社会変化と教育の潮流：キャリア教育と生き方の学び（2－3）
第9回	第9回：社会変化と教育の潮流：家庭教育と幼児期の教育・保育（2－1）
第10回	第10回：教員としてのプロフェッショナル・グロース：研修体系（1－2）
第11回	第11回：教員としてのプロフェッショナル・グロース：教職スタンダード（1－2）
第12回	第12回：教育思想の展開：近代の思想性と教育（3－1/3－2/3－3）
第13回	第13回：教育思想の展開：近現代の思想性と教育（3－1/3－2/3－3）
第14回	第14回：教育のパースペクティブ：カレント・トピックス（1－1/1－2/2－3）
第15回	第15回：教育の輪郭：不易と流行（1－1/1－2/2－3）

事前学修	2	授業シラバスの項目について、事前に学習をしておくこと。
事後学修	2	授業で提示した課題について、調べ学習を行うこと。理解した内容について、各自のノートにまとめておくこと。
フィードバックの方法	提出した小レポートについて、次回の授業内にコメントを付し返却をし、学習発展に供する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	60%	設問に関する取りまとめを評価する。
レポート	30%	論点整理を確認し、評価する。
上記以外の試験・平常点評価	10%	授業への参加意識や姿勢を把握し、評価する。
補足事項	特に無し。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に無し	特に無し	特に無し	特に無し	特に無し
参考資料	必要に応じて参考資料を紹介する。			

科目名	教育基礎論			担当教員	張 林倩
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	1 教育の基礎的な知見や関連する諸概念について理解し、説明することができる。 2 教育の歴史の変遷について理解し、近代学校制度を成り立たせる諸要因とそれらの相互関係について理解する。 3 現代教育が抱える課題について主体的に考え、さまざまな教育現象を批判的に考察する視点を形成する。				
授業の概要	教育の歴史や思想、原理や実践など、学校のみならず社会や家庭にもかかわる多様なテーマを包含する教育学の基本概念と今日における教育課題について、過去の歴史や教育家の思想を辿りながら学習を進めていく。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：教育とはなにか
第2回	人間の発達と教育
第3回	子ども観と教育
第4回	近代学校の成立
第5回	学校の社会的機能①：社会化
第6回	学校の社会的機能②：選抜・配分
第7回	日本における公教育制度の受容
第8回	戦後日本の学校教育①：「学問中心主義」から「ゆとり教育」
第9回	戦後日本の学校教育②：新しい学力観
第10回	現代における教育①：教科外活動
第11回	現代における教育②：グローバル時代における多文化教育
第12回	現代における教育③：ジェンダーと教育
第13回	現代における教育④：新自由主義と教育
第14回	現代における教育⑤：生涯学習
第15回	総括：授業要点の再確認

事前学修	2	授業終了時に次回テーマに関する予告を行うので、各自でテーマに関連する日常生活の出来事やニュースにアンテナを張って情報収集したり、文献を読んだりして予習を行う。
事後学修	2	授業後は配布したレジュメの復習を行うとともに、参考資料を読んで各自で授業の理解を深める。
フィードバックの方法	リアクション・ペーパーを用いて授業内容に関する質問や感想を受け付ける。必要に応じて次回授業時にフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	記述の論理性、教育の歴史・思想に関する基本概念を理解している
上記以外の試験・平常点評価	40%	コメントペーパーの内容等、授業への参加度
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定しない	なし	なし	なし	なし
参考資料	松下晴彦、伊藤彰浩、服部美奈編『教育原理をくみなおす』名古屋大学出版会、2021年。			